



平成30年9月6日

豊橋技術科学大学「物理・化学情報をミクロンレベルで可視化するマルチモーダルセンシング技術の創出」が、科学技術振興機構平成30年度産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)の共創プラットフォーム育成型に採択されました。

<概要>

豊橋技術科学大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「平成30年度産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）」の共創プラットフォーム育成型に申請し採択されました。豊橋技術科学大学を幹事機関として、産学官連携（研究機関1機関および民間企業6社）で提案した技術・システム革新シナリオ構想「物理・化学情報をミクロンレベルで可視化するマルチモーダルセンシング技術の創出」を推進していきます。

<詳細>

■産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）の目的

大学等と民間企業によるコンソーシアム型の連携により、非競争領域（研究開発成果に関する情報の共有が可能となる基礎的・基盤的研究領域）の産学共同研究、博士課程学生等の人材育成及び産学連携システム改革を一体的に推進することで、「組織」対「組織」による本格的な産学連携を実現し、我が国のオープンイノベーションの本格的駆動を図ることを目的としています。

■採択された「技術・システム革新シナリオ構想」の概要

・研究領域名称

「物理・化学情報をミクロンレベルで可視化するマルチモーダルセンシング技術の創出」

・提案概要

豊橋技術科学大学が世界で初めて開発した「イオンイメージセンサ」の技術をベースとして、様々な物理現象や化学現象をリアルタイムで可視化する革新的な「マルチモーダルセンサ」の実現を目指します。そのためには、以下の3つの要素技術が必要となります。

- ① ミクロンレベルの分解能を可能とするマイクロチップ設計製造技術
- ② 複数の物理・化学現象を同時に観測するマルチモーダルセンシング技術
- ③ 様々な事象の変化をリアルタイムに検出する技術

これらの要素技術を、幹事機関である**本学と、研究機関1機関および民間企業6社が参画する「マルチモーダルセンシング共創コンソーシアム」**の活動を通して創出し、IoT、AI時代を支える“データ”の価値を飛躍的に高めるセンサの実現と、医

療・バイオ・化学分野等の高度情報化に向けた基幹産業の創出・育成につなげていきます。

■コンソーシアム参画機関

- ・幹事機関： 国立大学法人豊橋技術科学大学
- ・研究機関： 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
- ・民間企業： 株式会社アロマビット、NTN株式会社、東邦化成株式会社、東朋テクノロジー株式会社、一般社団法人豊橋センサ協議会、浜松ホトニクス株式会社

参考リンク：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）ホームページ

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1336/index.html>

本件に関する連絡先

担当：研究推進アドミニストレーションセンター 馬場 清一 TEL:0532-44-6975

広報担当：総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506